

概要

パブリック・コメント募集期間 9月2日～13日

回答数 65 件

※ 1 件募集期間後の回答でしたが、採用しました

回答者内訳

- ・ 一般会員 37 人 (56.9%)
- ・ 専門会員 A 22 人 (33.8%)
- ・ 学会員以外 6 人 (9.2%) →パブコメ対象外

提示した「地域」の解釈案について

- ・ 賛成 50 人 (84.7%)
- ・ 賛成だが一部修正が必要 9 人 (15.3%)
- ・ 賛成しない 0 人 (0%)

提示した「活動」の解釈案について

- ・ 賛成 45 人 (76.3%)
- ・ 賛成だが一部修正が必要 12 人 (20.3%)
- ・ 賛成しない 2 人 (3.4%)

提示した「多面的な働きかけ」の解釈案について

- ・ 賛成 51 人 (86.4%)
- ・ 賛成だが一部修正が必要 8 人 (13.6%)
- ・ 賛成しない 0 人 (0%)

提示した「本学会の独自性」について

- ・ 賛成 48 人 (81.4%)
- ・ 賛成だが一部修正が必要 10 人 (16.9%)
- ・ 賛成しない 1 人 (1.7%)

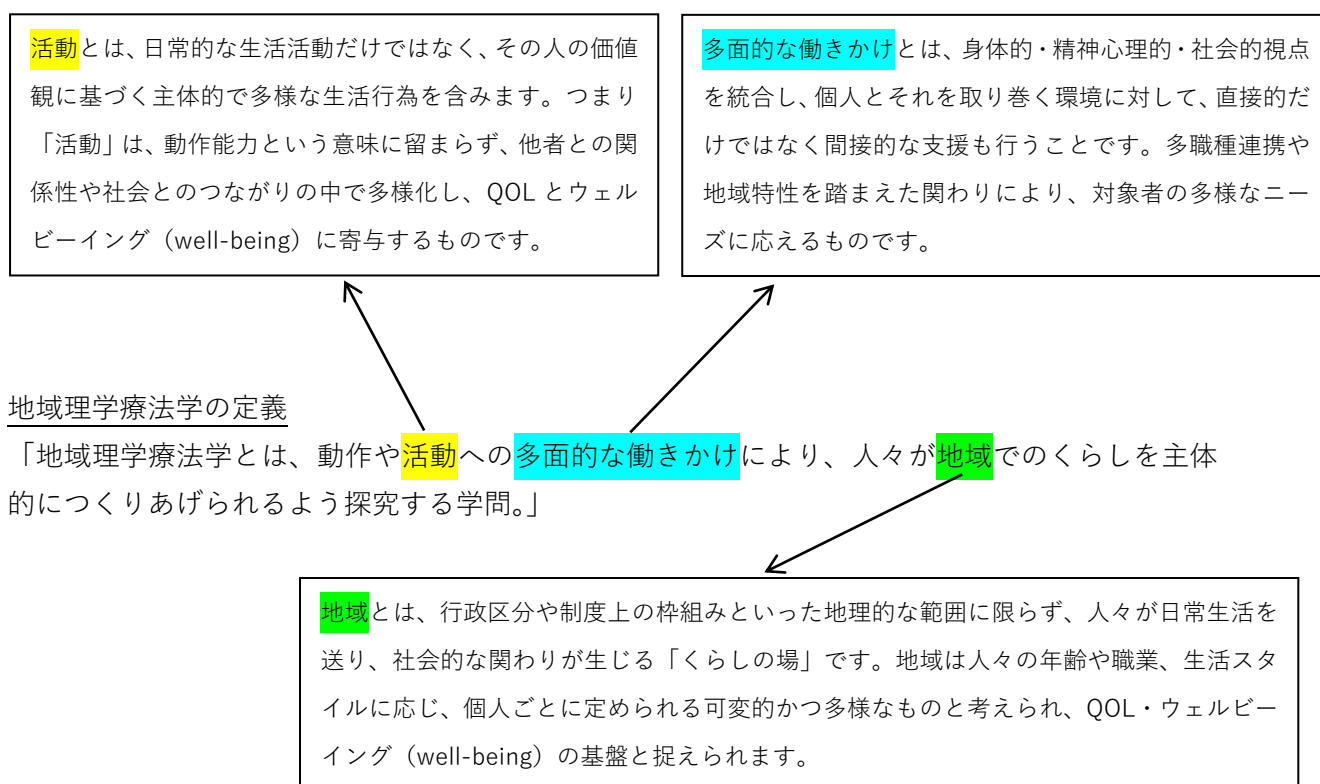
パブリック・コメントへの回答およびこれらを受けた各案の修正について

このたびのパブリック・コメントの募集に際し、地域理学療法学の定義に掲げる「地域」「活動」「多面的」の解釈、ならびに本学会の「独自性」について、マスタープラン・ワーキンググループ（以下、WG）を中心に本学会理事会で整理した解釈案を提示いたしました。

会員の皆さまからお寄せいただいたご意見を踏まえ、各案の一部を修正するとともに、各コメントへの回答を取りまとめましたのでご報告いたします。

なお、今回のコメントへの回答および修正案の作成は、過度に具体化することで定義の解釈が狭まってしまうことを避けるため、抽象度を残しつつ、一定の枠組みを提示することを前提としております。

※ パブリック・コメントを受けた修正内容



本学会の独自性

本学会は、地域理学療法学を自然科学・社会科学・人文科学を横断する学術基盤を有する応用科学として位置づけ、その独自性は世代・疾患・障害・病期を問わず全ての人を対象とするとともに、多様な職種や機関、団体などとの連携を推進し、実践知と科学的根拠の融合に基づく社会実装を重視することです。

1. 「地域」解釈案

① 本学会 WG からの解釈案

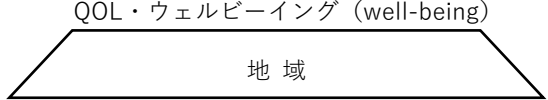
地域とは、行政区分や制度上の枠組みや地理的な範囲に限らず、人々が日常生活を送り、社会的な関わりが生じる「暮らしの場」の総体です。地域は人々の年齢や職業、生活スタイルに応じ、個人ごとに定義される可変的かつ多様なものと考えられ、その人の社会参加や自己実現を支え、QOL の基盤として捉えられます。

② パブコメ集約後の解釈案（変更部分：赤字）

地域とは、行政区分や制度上の枠組みといった地理的な範囲に限らず、人々が日常生活を送り、社会的な関わりが生じる「くらしの場」~~の総体~~です。地域は人々の年齢や職業、生活スタイルに応じ、個人ごとに~~定義される~~**定められる**可変的かつ多様なものと考えられ、~~その人の社会参加や自己実現を支え~~、QOL・ウェルビーイング（well-being）の基盤と~~して~~**て**捉えられます。

③ パブコメへの回答

頂いたコメント	WG からの回答
地理的な範囲に限らずの意味が取りにくいです。これはバーチャル空間を含むという意味でしょうか。	将来的には含まれることを想定しています。また、Area だけでなく Community を含むことから地理的な範囲に限定しないものと考えております。
風習、文化としての側面の地域も包含した方が良いと思いました。	ご指摘の内容は、「生活スタイル」という表現に包含されると考えております。
「地域は年齢・職業・生活スタイルによって・・・」とありますが、「学会の独自性」では、人文科学や実践知を独自性として謳っています。人それぞれの「内面性」や「信条」といった文言が必要なのではないのでしょうか。	
限らずという表現が硬く感じられるので、もう少し柔らかく奥行きのある表現にさせていただけると良いと思います。	他の語の解釈に関わる表現から考慮しても、特に支障がないと考え、原文のままいたしました。
「個人ごとに定義される」とありますが、「定義」という表現が誤解を生むように思いました。この解釈案は学会として、地域の概念を示されていると理解しております。個人それぞれで「地域」を定義できると、学会として定まった「地域」の概念がないと捉えられないのでしょうか。「個人ごとに異なる」という表現であれば上記懸念をなくすことができると考えます。	「定義される」を「定められる」に修正しました。

「その人の社会参加や自己実現を支え、QOL の基盤」とありますが、そもそも、地域は人が生活していく基盤であることが抜けているように思います。	ご指摘の内容は、「くらしの場」という表現に包含されると考えております。
QOL の基盤という表現の「基盤」という言葉の含意が曖昧であると思います。	この「基盤」とは、構造的に地域は QOL・ウェルビーイング（well-being）の土台になるものという意味で使用しています。 
『「暮らしの場」の総体』について、この「場」と「総体」がやや類似した概念になること、暮らしの場は色々変動することから、「主たる暮らしの場」と改めてはどうかと思います。	「総体」という文言が誤解を招いている可能性が否定できないことから、「総体」を削除し「くらしの場」のみと修正しました。
「地域とは、行政・・・個人ごとに定義される可変的かつ多様なものと考えられ、」までについては賛成です。その後の、「その人の社会参加や自己実現を支え、QOL の基盤として捉えられます。」について、分かりにくく、違和感があります。「支え」の主体は誰でしょうか？「地域」ですか？この「支え」には、支え手や制度システムが含まれるということとも読み取れますが、「地域」の解釈という視点からは言葉足らずもしくは前後の文章とのつながりが悪い印象を持ちます。修正の提案としては、「その人の社会参加や自己実現を支え」を削除する、もしくは「その人の社会参加や自己実現を支える社会システム」とするのはいかがでしょうか？そうすると、その後の「QOL の基盤として捉えられます。」へのつながりも悪くないと考えました。ご検討をお願いいたします。 QOL でも異論はないが、well-being の表現はどうでしょうか。政策等と絡めたエンドポイント、アウトカムとして捉える場合にはこちらの方が良いと思いました。	「地域は～中略～、その人の社会参加や自己実現を支え、QOL の基盤として捉えられます。」という文章から「その人の社会参加や自己実現を支え」を削除し、「地域は～中略～、QOL・ウェルビーイング（well-being）の基盤と捉えられます。」と修正しました。
「行政区分や制度上の枠組みや地理的な範囲」にある、行政上の枠組みとは何のことでしょうか。行政区分は地理的な範囲を指していると思いますが、制度上	「地域とは、行政区分や制度上の枠組みや地理的な範囲に限らず」を「地域とは、行政区分や制度上の枠組みといった地理的な範囲に限らず」と修正しました。

の枠組みが地理的な範囲でなければ、行政区分と並列にはできないと考えます。	
--------------------------------------	--

2. 「活動」の解釈案

① 本学会 WG からの解釈案

活動とは、日常生活行為（ADL）だけではなく、社会参加、趣味・余暇、文化的活動、役割の遂行など、その人の価値観に基づく主体的で多様な生活行動を含みます。これらの活動は、動作能力という意味に留まらず、他者との関係性や社会とのつながりの中で多様化し、QOL 向上を通じたウェルビーイングを達成する礎となるものです。

② パブコメ集約後の解釈案（変更部分：赤字）

活動とは、~~日常生活行為（ADL）~~日常的な生活活動だけではなく、~~社会参加、趣味・余暇、文化的活動、役割の遂行など、~~その人の価値観に基づく主体的で多様な生活~~行動行為~~を含みます。~~これらのつまり~~活動は、動作能力という意味に留まらず、他者との関係性や社会とのつながりの中で多様化し、QOL とウェルビーイング（well-being）に寄与するものです。~~向上を通じたウェルビーイングを達成する礎となるものです。~~

③ パブコメへの回答

頂いたコメント	WG からの回答
社会参加は趣味などその後に続く上位の概念だと思 います。また、学習や就労が入らないのは疑問があり ます。	「社会参加」と「趣味・余暇」は並列の「・」ではな く「、」で区切っており、これら活動の関係性は並列で はないものと考えております。また、ご指摘の内容は、 本解釈における活動に包含されると捉えております。
社会的位置づけまたは役割 仕事 などに関する 加筆が必要と思いました。	
就労が社会参加や役割の遂行、社会へのつながりに包 含されていれば、問題ないと思いましたが、含まれて いないのであれば、高齢者に限定された活動としての 解釈になるのではないかと感じました。	
自宅内での家事動作は家族関係での参加にも該当す ると思いますし、宗教活動も参加にも当てはまると思 います。	
宗教的あるいは精神的な活動が含まれにくいように 思います。後期高齢者が増加する将来においては老年 的超越を意識した活動を想定してもよいのではない かと思います。	

社会的参加との混同が招かれるのではないかと、また、同じく身体活動との混同も起こり得るのではないかと考えました	社会参加と社会的参加に明確な差異を定めることができず、本解釈において両者は同義と捉えています。また、身体活動は活動の結果として生じ得るものであり、活動＝身体活動とは意味が異なると考えております。
ICF の「参加」に含まれるものが文言として入っているかと思えます。	ICF の活動と参加の考え方も参考にしていますが、ICF に依拠をしたものではなく、本学会として「活動」を解釈しております。この「活動」は ICF における参加も含み「くらし」を指すものと考えております。 なお、ICF においても「活動」と「参加」を区別することは困難とされ、その分類も包括的に表され、評価者が目的や文脈に応じて使い分けることとなっております。 また、多様性を前提としていますので、評価や対象者への説明において、個人間で統一された基準を定める意図はありません。
ICF における「活動」とは違う解釈であることが伝わると良いのではないかと思います。	
「活動」と「参加」の区別に検討の余地があると思います。	
ICF と解釈がわかりにくくなる	
活動にあまりに幅広い意味を持たせると、評価の際の絞り込みや利用者やその家族への伝わり方がさまざまな解釈となり、本来目指すべき意味が逆にぼやけてしまうのではないかと、危惧します。	
オーバーラップする部分も多いと思いますが、言葉の定義をする際に検討の余地があると考えます。" ・ADL を「日常生活行為」と訳されたのは意図があるのでしょうか。Google scholar では、「日常生活行為」よりも「日常生活動作」のほうがヒット数が多く、多くの人に使用されている「日常生活動作」のほうが理解されやすいと思いました。	Activities of daily living は老年学会などでは日常生活活動と訳されていることは理解しております。但し、「活動」の解釈を表すのに「活動」という単語を繰り返し用いることに抵抗があったことと、地域理学療法学の定義に謳われている「主体的」という言葉に基づき、本人が主体的に意図を持って行う「行為」という語を使用すべきと考え、日常生活行為と表現しました。しかし、今後同様の疑義が生じることも考えられたことから「日常的な生活活動」へ修正し、ADL という語も削除しました。
「QOL 向上を通じたウェルビーイングを達成する」とありますが、ウェルビーイングは「達成」するものなのでしょうか。ウェルビーイングは well + being からなり、その人にとって「よい状態」を意味します。個人の身体的、精神的な状態だけでなく、価値観によってもウェルビーイングは左右されるため、何かをやり遂げるという意味を持つ「達成」という表現は合わないと考えます。 上記に関連して、ウェルビーイングは「QOL の向上を通じて」達成されるとも言い切れないと考えます。	「前略～多様化し、QOL 向上を通じたウェルビーイングを達成する礎となるものです。」という文章を「前略～多様化し、QOL とウェルビーイング (well-being) に寄与するものです。」と修正しました。

QOL とウェルビーイングの概念的な違いが明晰ではないと思います。混乱される方が多いと思います。	
地域のみなさんにも伝わりやすい表現の方がよいと思います。ウェルビーイング(肉体的にも精神的にも社会的にも満たされた、自分らしく豊かな状態)など	可能な限り地域理学療法学会に所属する理学療法士以外にも伝わりやすい表現を工夫します。
「定義にある「動作や活動」は、「活動・参加」とした方が一般的に理解されやすいと思います。「活動」に、一般的な「参加」を含めた定義づけをすることは混乱を招くと思います。なお、「動作」まで含めてしまうと、他の専門学会と重複する学問領域が大きくなるため、「動作」は含めないこととした方が学会の独自性が出ると思われます。	今回は、地域理学療法学の定義に謳われている「地域」「活動」「多面的な働きかけ」の解釈を整理することが目的であったため、今後定義の改訂が行われる際に参考にさせていただきます。

3. 「多面的な働きかけ」の解釈案

① 本学会 WG からの解釈案

多面的な働きかけとは、身体的・精神心理的・社会的を含む複数の視点を統合し、個人・集団・地域に対して、直接的だけではなく間接的な支援も行うことです。多職種連携や地域特性を踏まえた支援により、対象者の多様なニーズに応えるものです。

② パブコメ集約後の解釈案（変更部分：赤字）

多面的な働きかけとは、身体的・精神心理的・社会的を含む複数の視点を統合し、個人・~~集団~~
~~地域~~とそれを取り巻く環境に対して、直接的だけではなく間接的な支援も行うことです。多職種
連携や地域特性を踏まえた支援関わりにより、対象者の多様なニーズに応えるものです。

③ パブコメへの回答

頂いたコメント	WG からの回答
政策や環境への働きかけもあるのではないのでしょうか。	間接的な支援に含むものと解釈しております。
地域理学療法や地域リハビリテーションに関する啓蒙活動、あらたなサービスや法律の創出などを加筆したらいかがでしょうか？	
支援を与えることだけが支援でないと考えます。支援できる存在であることをいつまでも感じられることも地域理学療法学の多面的働きかけに含まれるのではないのでしょうか。	現在、本学会では地域理学療法学の実践領域を「直接支援―間接支援」「個別支援―集団支援」という2軸で表現しております。この表現と齟齬が無きよう「支援」という単語を活用しました。

	しかし、支援という言葉の使い方への疑義があることも理解し、一部表現を「関わり」と修正しました。
概ね賛成いたします。これは好みの問題かと思いますが、「身体的・精神心理的・社会的を含む複数の視点を統合し」について、「身体的・精神心理的・社会的な複数の視点を統合し」あるいは「身体的・精神心理的・社会的な視点を統合し」でも意味は通じるかと思います。「身体的・精神心理的・社会的を含む」の「含む」の部分について、それ以外は何だろうと考えてしまいました。	
・「身体的・精神心理的・社会的を含む複数の視点」の日本語が変だと思いました。「身体的・精神心理的・社会的」のあとに「を含む」とは続かないと思います。 ・「身体的・精神心理的・社会的を含む複数の視点」とありますが、身体的・精神心理的・社会的視点以外にも必要な視点がありますか。「を含む複数の視点」とあると、身体的・精神心理的・社会的視点以外にもなにか必要な視点があるように見えました。 ・1文目を要約すると、「視点を統合し、支援を行うこと」になりますが、視点を統合するだけで支援につながるのでしょうか。実際には、「視点を統合して、対象者のニーズを抽出したうえで、支援を行う」のではないのでしょうか。	当初案の「身体的・精神心理的・社会的を含む複数の視点を統合し」という表現が判りにくいと考え、「身体的・精神的・社会的視点を統合し」と修正しました。また「ニーズを抽出した上で」ということについては、文末に「対象者の多様なニーズに応えるもの」と明記しており、そこに包含されるものと考えております。
個人と集団の間に個人に関係の深い人として家族などが含まれると思われます。家族など関係の深い人へのアプローチが個人の支援になることもありましたので、追加をご検討いただければと思います。	家族・親族など近しい人々は社会学的には第1次集団と呼ばれていることから、「集団」の中に含まれるものと解釈しております。
・「直接的だけではなく間接的な支援も行う」で、「も行う」とあると、直接的・間接的な支援以外にも何かを行うように見えます。「直接的、間接的な支援を行うことです。」という表現はどうでしょうか。	多くの理学療法士が直接的な関わりに軸を置いている現状に対し、それだけでなく間接的な支援も行うという意図で本表現としております。
ここで述べられている「地域」は先ほどの質問にあった地域と同じ概念(語義)でしょうか？ここで列挙している個人、集団、地域とは、マクロ、メゾ、マクロのような関係性の階層構造を指しているように思います。これは、先の「地域」とは異なる概念(語義)ではな	「個人・集団、それら取り巻く環境に対して」と修正しました。

いかと思いますので、「地域」ではない別の言葉に置き換えた方が良いのではないかと思います。	
「多面的な働きかけ」は、理学療法の専門的な視点を活かして行われるものでなければ、他職種による介入との違いがなくなってしまうので、そのようなことを加えてはどうかと思います。	今回は、地域理学療法学の定義に謳われている「地域」「活動」「多面的な働きかけ」の解釈を整理することを目的としております。したがって、理学療法の視点を活かして行われることを前提としております。

4. 「本学会の独自性」の解釈案

① 本学会 WG からの解釈案

本学会の独自性は、理学療法学を自然科学・社会科学・人文科学を横断する学術基盤を有する応用科学として位置づけ、世代・疾患・障害・病期を問わず幅広く対象とするとともに、多職種・地域との連携を推進し、実践知と科学的根拠の融合に基づく社会実装を重視する点にあります。

② パブコメ集約後の解釈案（変更部分：赤字）

本学会の独自性は、~~地域~~理学療法学を自然科学・社会科学・人文科学を横断する学術基盤を有する応用科学として位置づけ、~~その独自性は世代・疾患・障害・病期を問わず幅広く対象とする~~~~とともに、全ての人を対象とするとともに、多職種・地域との連携を推進し~~多様な職種や機関、団体などとの連携を推進し、実践知と科学的根拠の融合に基づく社会実装を重視することです。~~点にあります。~~

③ パブコメへの回答

頂いたコメント	WG からの回答
応用科学を用いた理由を教えてください。応用というと、他の学問が基礎科学ととらえられてしまうので、単にここの部分は「学問」でも良いと思います。	この表現は他の学問と比較をするものではありません。 自然現象の根底にある普遍的な原理・法則を探究する基礎科学に対して、理学療法学は「くらし」の中でその人のニーズや課題を解決することを目指すものであることから応用科学としました。
地域との連携を、地域の様々なステークホルダーとの連携というように明記した方が良い。	ステークホルダーは表現として適切ではないと考え、「多様な職種や機関、団体などとの連携を推進し」と修正しました。
学際的であることは賛成いたしますが、没個性につながる懸念があります。コアとなる学問の芯は何かを考えるべきではないでしょうか。学際的に考えて・・・を実現するというようにならないと行けない	貴重なご意見ありがとうございました。 学際的であること自体が没個性に直結するものではないと考えております。今回はパブコメ募集のご案内にも書かせていただきましたが、マスタープラン策定

のではと思います。この独自性ですと老年学などの定義と同じように感じられました。私としては、生活の場で癒やし癒やされる環境を作るために学術的に研鑽するのが基礎理学療法学だと思っています。	にむけた学会 vision を考える上での文言の解釈整理を主目的としております。したがって今回の議論の先には、このような独自性を有することから「●●を実施する」という書きぶりに今後変わってくるものと考えております。
リハビリテーションの理念との関係性は深いと思います。リハビリテーションの理念に関する文言を入れた方が良いと思いました。	リハとの関係性は前提と理解しております。その上で、今回はあくまでも理学療法学の中での独自性を考えて文言と整えております。
「世代・疾患・障害・病期を問わず幅広く対象とする」について、懸念点がございます。対象の範囲についてです。間接支援の対象として、コミュニティ、市町など個ではなく集団という考え方もあるかと思っています。この文章からは「個人」のイメージが強く感じられました。改善案としては、「世代・疾患・障害・病期あるいは個人・集団を問わず幅広く対象とする」と考えました。ご検討いただけますと幸いです。	「世代・疾患・障害・病期を問わず幅広く対象とするとともに、」と言う表現が個人を思い起こさせてしまうということから、「世代・疾患・障害・病期を問わず全ての人を対象とするとともに」と修正することで集団をも含むと解釈できると考えております。
・「世代・疾患・障害・病期を問わず幅広く対象とする」とありますが、日本語が変に感じました。「世代・疾患・障害・病期を問わず全ての人が対象となりうる」ということでしょうか。	
『多職種連携』が医療職の関係者だけではない、もっと幅広い職種の人が含まれていると解釈がされていれば良いかと思います。ただ、医療に関わる人にとっては『多職種連携』が狭い範囲での連携と捉えてしまう方が多いと思うので、地域理学療法学だからこその医療に限らない幅広い連携を行うことがわかる記載にしてもらった方がより良いのではないかと思います。	多職種とは医療専門職に特化しないことは既知のことと理解をしております。本案においてもそこを前提としておりましたが、医療専門職のみと誤解を生じてしまうことはよろしくないことから「多様な職種や機関、団体などとの連携を推進し」と修正しました。
1 で地域を解釈されており、「暮らしの場」の総体としているので、『地域との連携』というよりも『地域での連携』というほうが解釈のズレが少ないのではないかと思います。	「多様な職種や機関、団体などとの連携を推進し」と修正しました。

予防医療的な記述があるとよいか。	「世代・疾患・障害・病期を問わず全ての人を対象とするとともに」に含まれるものと解釈しております。
解釈案を読んだときに、地域理学療法学でしかできないことが見えてきませんでした。 ・本学会の独自性を語るにあたり、理学療法学の位置づけを明示する理由は何でしょうか。地域理学療法学の定義があるのですから、スタートは地域理学療法学の定義ではないでしょうか。	「理学療法学を」を「地域理学療法学を」に修正しました
「理学療法学を・・・と位置付け、」とありますが、これは「地域理学療法学」とした方が適切ではないかと思えます。	
「社会実装」という言葉の範囲が曖昧だと思います。単に研究成果を実践現場に応用することなのか、研究成果の事業化や法制化等まで視野に入れているのか。前者であれば別の言葉に置き換えた方が良いかと思えますし、後者であれば、どういうイメージなのかは明確にした方が良いと思えます。	「社会実装」とはご提示いただいた両者を含むものと解釈しております。 研究成果を我々にとって臨床現場で応用することが一番身近な社会実装であり、やがてそれが浸透し価値が認められ、事業化や社会の仕組みが変わってくことも社会実装であると解釈しております。
どこかの文章内に「生活」という文言があった方が良いのではないかと感じます。地域という分野においては、個別性の強い実生活を送ることが必要不可欠であると日々感じています。	今回は、地域理学療法学の定義に基づいた議論となっております。定義の中に「人々が地域でのくらしを主体的につくりあげられるよう」という文言があることから、この中に「生活」が含まれているものと解釈しております。